

加賀市新製品開発補助事業 採択製品
伝統工芸山中漆器サステナブルデザイン プロジェクト

我戸幹男商店について

山中漆器の技法を活用しながら、モダンなデザインで伝統工芸の新しい世界を目指しています。
2023年3月には雑誌FRaU「JAXUARY」日本のラグジュラリーブランド10選にも選出されました。

<概要>

山中漆器の製造時に排出される廃木粉を回収、アップサイクル処理することで、再び伝統工芸漆器として使用可能な成形木地を開発しました。我戸幹男商店初の成形木地であるため、木地の段階からデザインを重視し、デザイナーには削る前から美しい形状を作りこんでいただきました。木地デザインは、既存の木地の形状と漆器製品の形状の差異や、ろくろ挽き職人の作業工程や設備を調査し、伝統工芸と最新技術を繋ぐ、理に叶った美しい曲面で構成されたデザインとしました。



完成した成形木地 山中漆器の櫨の廃木粉をアップサイクルしてバイオマス成形材を開発

完成した成形木地は、体積の90%以上（比重では51%）が山中漆器製造時の廃木粉でできています。菱華産業のMIRAIWOODアップサイクル技術により、木粉に生分解性樹脂（とうもろこし由来）をつなぎとして配合し、金型による射出成形で木製品を製造することが可能になりました。天然の木材ならではの味わい深く高級感ある質感も実現。リサイクルも可能な素材となっています。

<伝統工芸の技術を活かせる成形木地>



漆塗り塗装試作品

我戸幹男商店の漆塗り技法にも対応。木材のように吸い込みも良く、発色も良好です。



加飾挽き試作品

成形品でありながら、山中技法の加飾挽きにも対応できました。加工性も良くシャープな造形が可能。サステナブルな木粉成形でありながら、山中伝統技術を十分に発揮できる木地となっています。

アップサイクル成形木地が、伝統工芸と本物の木漆器を救う（産業の持続性をデザイン）

現在、世界的な資源高騰、ウッドショックにて木材の価格が高騰、流通も少なくなっています。

成形木地の導入は、木材不足を補い、伝統工芸の仕事を持続するサステナブル性が期待できます。

<デザイン開発について>

デザイナー 森 豊史 氏 (KEYAKITO) <https://www.keyakito.com>

デザイン開発を行なったデザイナーの森氏は、MoMA ニューヨーク近代美術館収蔵や GOODDESIGN 賞の殿堂入り「LONGLIFE 賞」受賞、渡辺力や柳宗理、深澤直人ら有名デザイナーとの協働や、無印良品、IDEE、ACTUS、LEXUS、VOLVO、Paul Smith など有名ブランドのデザイン実績があります。本製品では、渡辺力らとのデザイン開発の経験をもとに、素材と技術の理にかなったデザインとしたそうです。

森氏は本当のサステナブルデザインとして、地域社会の持続性を向上する仕組みのデザインからプロジェクトを開始。廃木粉サプライチェーン、消費エネルギー、脱炭素化などを総合的にデザインしました。

また、この成形木地のための以下のコンセプトデザインが提出されました。いずれも、山中漆器のろくろ挽きを活用し、欧州など環境指向の強いマーケットに向けたデザインとなっています。デザイン開発は我戸幹男商店と森氏とのコラボレーションで行い、伝統技法のろくろ挽き、加飾挽きを活かした上で、伝統と未来をつなぐ、クラシックさとモダンなミニマルさを融合したものとしています。



製造時の廃材や加工のエネルギーもできるだけ少なく（当然、CO2 排出量も少なく）、削りの廃材は全て回収され再度のアップサイクル工程に活用されます。

株式会社明治とのコラボレーションも開始、チョコレートのカカオ廃材の活用も始まっています。